

令和5年度林業成長産業化構想技術者育成研修 (ICT研修) 中部ブロック研修を実施

ブロック研修においては、ICT等の最新技術を活用した効率的かつ効果的な路網の整備や、地域の特性と森林資源状況を考慮した森林整備計画、資源活用計画等により、プロダクトアウト（製造側からの提供）からマーケットイン（顧客のニーズの反映）へ思考を転換し、サプライチェーンまでを含めた構想を作成するなど、林業の成長産業化に資する構想を作成できる技術力の養成を目的に、全国6ブロックで実施されました。

中部ブロックでは、11月7日から10日の4日間、岐阜県下呂市及び加茂郡七宗町（現地研修）において、石川県、富山県、長野県、岐阜県、愛知県、滋賀県、岩手県から県職員6名、民間事業体等職員3名、整備センター職員2名、国有林職員3名、計14名が参加し研修を実施しました。本年度は、約1,400haの民有林と国有林の演習地の内、主に国有林1,000haについて、森づくり構想を念頭に10年間の第1・第2期の基幹林道の新規計画と、5年間の第1期森林整備計画（木材生産）について、近隣の林業事業体、木材加工・流通情報を踏まえた検討結果を発表するカリキュラムで3班に分かれ行いました。また、路網の検討にあたっては、路網設計支援ソフトを使用して路網整備の促進を図るもので、QGIS（※地理情報システムの閲覧、編集、分析機能を有するオープンソースソフトウェア・GISソフト）や、航空レーザー計測等で得られた森林現況や地形データ等を基に林道などの路網を机上で設計し、現地の眺望や踏査、ドローンによる現地確認等で現況を把握し修正を行う内容で取り組みました。この研修により、木材生産基盤整備のための高度技術者等を育成し、生産性の向上、施業の低コスト化、資源の循環利用促進等により、林業の成長産業化を担う人材を育成していきます。

【1日目】「開講式、森林資源把握・路網配置計画演習」

QGISデータ及び図面で演習対象地の森林現況及び地形の把握を行い、森林及び路網の整備計画や地域特性に応じた森づくりの構想等について大局的に検討する視点を養うことを目標に取り組みました。



ブロック研修の目的を説明（林野庁 守屋係長）



森づくり構想（横井講師）



会場は広々とした空間（下呂市民会館 大会議室）



PCデータで路網配置の検討

【2日目】「現地実習」

演習地（七宗国有林）へ移動し、「地域特性に応じた森づくりの構想」「森づくり検討・森林現況の把握・路網配置の調査」について、昨日机上演習で検討した演習地（現地）の眺望、資源量や地形・地質、周囲の土地利用等についてドローンも活用し現地で確認するなど、路網計画や森林整備計画を再構築しました。



森づくり構想の現地実習
(横井講師)



調査結果に基づき現地の概要を説明
(計画課 松井計画調整官)



現地にて高齢級箇所の森づくりについて意見交換



現地にて間伐箇所の森づくりについて意見交換



図面等により現地を確認



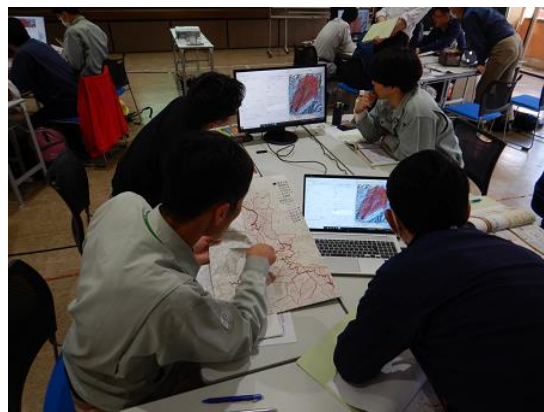
森林技術・支援センター田口専門官から
ドローンによる撮影確認等についての説明

【3日目】「林業成長産業化構想演習」

机上演習と現地実習の結果を踏まえて、5年間の路網整備・森林整備（木材生産）の計画を含めた林業成長産業化に資する地域構想を作成。路網計画が市町村森林整備計画上のゾーニングや更新方法と整合が取れているかなど、計画的な路網整備を行うための視点を養いました。



本多進行役からプレゼン資料作成手順等の説明



現地踏査後路網計画を再検討



現地踏査を踏まえ森林整備計画の再検討



真剣な眼差しで予定路線等を再検討



現地踏査を踏まえ検討資料を整理



お昼休みは森林技術・支援センター新庁舎でCLT等を見学

【4日目】【発表、ディスカッション、講評、閉校式】

各班演習の発表とディスカッションを通じて、構想の実現に向けた計画立案と地域の利害関係者との合意形成に必要なプレゼンテーション・コミュニケーション能力の向上を図りました。



1 班発表



2 班発表



3 班発表



講評（佐藤アドバイザリーグループ会合委員）



講評（林野庁 守屋係長）



閉校式（森林技術・支援センター 四ツ嶽所長）



集合写真

◎受講生へのアンケート結果（抜粋）

- ・ 森づくりに正解はないが、正確な森林の知識を持って、正しく現況を把握することが大切
- ・ 普段の仕事の中で、山をじっくり見て討論する機会は意外と少ないので有意義な時間となった
- ・ 森の状態を見て、科学的根拠と合理的判断で決定する能力を身に付けることで、現地での森林の評価と今後の施業への説明に大きな力になると思った
- ・ きちんとエビデンスを持って、施業方針を決めることの大切さを再認識させられた
- ・ FRD、QGISを使って表示等させる経験ができて良かったが、FRDでの検討後に現場で再検討したかった
- ・ GISで森林資源量を把握してから、現地を調査するポイントを学んだ「木を見て森も見る」
- ・ 地形や土質、地位等の情報を基に、林内を分析し目標とする林型を決定することが大切であることを学んだ
- ・ 踏査では線形の視点以外に、木材生産がどの程度できるかまで、班のメンバーで考えることができた
- ・ 班内で意見を出し合い、演習・実習から発表することで、より理解度が高まった
- ・ 全体を通して、とてもスムーズに進行していた。事前説明があったのも良かったと思います